令和6年度学校安全指導者研修会　　2024年11月15日
@陸前高田コミュニティーホール

講話「災害を語り継ぐ防災教育を学ぶ」

故郷の復興・発展を支える人づくり

岩手県立図書館館長
岩手大学地域防災研究センター客員教授
森　本　晋　也

本日の内容

はじめに

1．釜石の出来事について

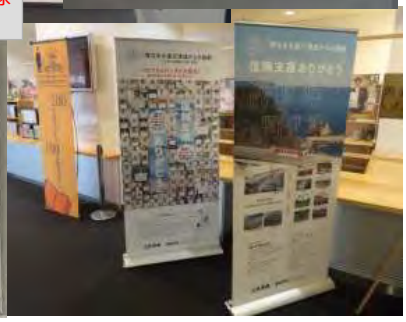
2．「いわての復興教育」について

おわりに

はじめに

震災・防災の学び合いスペース「I-ルーム」を開設

震災伝承施設として登録
（令和6年２月７日）



資料を活用してグループで探究的に学ぶ

震災関連の展示や情報提供

県立図書館を活用した復興教育・防災教育の推進

震災・防災等の学び合いスペース「I-ルーム」とは

○児童生徒やグループによる学び合いの場
○利用者が資料等に出会い、課題解決に向けて有益な情報を得る場
○愛と希望に満ちた岩手県（Iwate Prefecture）の創造につながる拠点

●4階に書架を配置しグループ学習できる環境を整備（36人）
●ミニシアター（77人）も活用可能

児童生徒等の復興や防災の探究的な学びの支援

・「I-ルーム」で、具体的に学べる図書や資料の提供
・「レファレンス」機能を活用して探究的な学びを支援
・ワークショップ等の企画・開催
・学校や各種団体への図書等のセット貸出

「セット貸出」について

●学校のテーマに合わせて司書が選定した図書や資料を借りる。
●先生や生徒が必要な図書を選んでまとめて借りる。
●「I-ルーム」で選んで、借りる。
※ 復興教育・防災教育以外のテーマも対応可能です。

自然災害や防災、安全を総合的に学ぶ拠点

・県民や本県を訪れた方々が震災津波や自然災害、防災、安全等を総合的に学ぶことができる場

県内の震災津波関連施設等のサテライト的機能

・県内の震災津波関連施設の紹介　・沿岸部への誘客の促進

花巻市立湯口中学校 「復興学習」（宿泊研修の一環）　2024年5月29日

(1) 館長講話

震災を生き抜いた釜石の子どもたちの避難行動や地域の災害リスクについて学ぶ

(2)テーマについての調べ学習

「言い伝え」、「災害医療」、「後藤新平の復興への取組」、「語り部の活動」、「復興への歩み」などのテーマについて調べる。

職員が、調べ方のアドバイス。図書資料やDVDなどをセット貸出。学校に戻ってから、学習のまとめ。

(3) 台風・大雨ワークショップ「そのとき、どうする？」

付与情報（気象情報）に対して、地域のハザードマップをみながら、家族の状況を考えながら対応を考える。

1．釜石の出来事について

釜石東中学校の防災教育（2009年度～2010年度）

【防災教育のねらい】

1．自分の命を自分で守る
～津波・地震の知識を身につけ、避難できる生徒の育成～

2．助けられる人から助ける人へ
～家族・地域社会の一員としての自覚を高め、行動できる生徒の育成～

3．防災文化の継承
～防災文化の継承者の育成～

【ねらいを達成するために】

1．津波を知る、避難方法を知る、地域を知る。（知識・理解）
2．日常生活においても、考え、判断する。　（思考・判断）
3．避難訓練や防災ボランティーストにおいて実践する。（行動）

釜石東中学校防災教育プログラム
「EAST-レスキュー」

	1年生	2年生	3年生
共通	防災オリエンテーション、小・中合同避難訓練、小・中合同地区集会、防災ボランティースト、地域の避難訓練		
教科	ゆれる大地(理科) 耐震技術(技術) 地域調査(社会) 防災ポスター(美術)　他	自然災害(社会) 災害に備える(保健) 安全対策(家庭) 防災ポスター(美術)　他	地域での支え合い(社会) 防災ポスター(美術) 他
総合	「てんでんこ」 (体感学習、フィールドワーク、ビデオ制作、率先避難)	「Tsunami」 (津波防災館訪問、防災ボランティーストの劇化)	本所防災館訪問
道	「災害ボランティア」(道)	「避難しない人の心理」(学)	「語り伝えよ」(道)

１学年総合の「まとめ」
【てんでんこレンジャーDVD作成】

全校総合【防災ボランティースト】

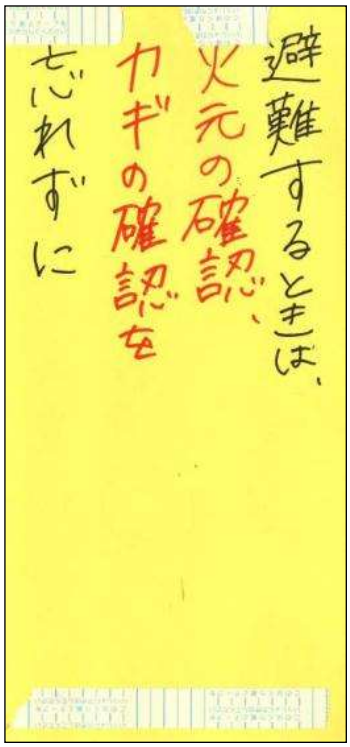
１学年総合
【津波の高さ・速さ・地震の揺れの体感】

１学年総合
【フィールドワーク】

学校行事
【小中合同避難訓練】

安否札の配付

一人暮らしの高齢者のお宅を中心に、民生委員さんの協力を得て、配付した。



生徒の手書き　　左（表）／右(裏)

質問Ⅲ（１１） なぜ，印象に残りましたか。

課題意識の向上

自己関与

- 津波の危険が自分に来るかもしれない
- 自分の周りのことと関係する
- 過去の津波被害の場所が自分の知っている場所である
- 地域を歩いて，本当に津波が来たらどこへ逃げるのかと思った
- 自分の目で見て歩くことで，津波被害を想像した
- グループでマップを見ながら，津波が来たらどうすると考えた。人ごとではない
- てんでんこレンジャーの映像内容と実生活が同じ。生活の中に組み込まれている

興味関心

興味関心
- 他の人の発表を聴いて興味がわいた
- 友人が出演していて関心をもった

映像教材のインパクト
- 津波の映像は貴重。今まで見ることがなかった
- 映像は具体的で分かりやすい

基礎知識の習得
- 地震津波の発生確率を知った
- 地震津波の知識をざっくりと教えてくれたので危機感をもった

学外・社会への展開

家族と話し合う

- てんでんこの教えを家族と話し合った

地域とのつながり

- 地域の人とつながりができた
- 自分から地域の人に関わっていけた
- 地域の人を巻きこんだことで，挨拶やつながりができた
- 地域の防災意識の高まりに関わることができた

学外への発信

- DVD映像を他の地域で配布した
- 自分たちが制作した映像を親も見た
- 文化祭で展示したことで，地域の人も目にした
- 映像を発信して伝えることができた

学習の主体性

価値・目標の共有化

- 「助けられる人から助ける人へ」を学び，みんなで助かりたいと思った
- 人のために役立つなど，学習の目標が実感できた

自分で考える

- 自分たちでやると，考えるので印象に残る
- 自分で調査した学習だから
- 自分で調べて書くことで記憶に残る
- 過去の津波被害を調べてポスターで発表した

自発性

- 楽しみながら上を目指すなど，自主的にできた（EASTレスキュー制度）

学習経験のつながり

- 小学校での学習と連動し，点と点がつながった
- 祖母からの話が，実物の資料で確認され，印象に残った
- 小さい頃は分からなかったが，中学校で理解できた
- てんでんこの教え通りに避難して，学んだことが実証された

体験・表現・想像

- 映像制作の際，台詞を覚えたことで，語り継ぐことが頭に入った
- 津波の速さの体験，高い所への避難が意識づけになった
- みんなで廊下に縦に並んで寝て，津波の高さを表現し想像した

学習経験の反復

学習経験の反復

- 避難訓練が繰り返されたことで意識が強まった
- 避難訓練は慣れること

自己肯定感

学外からの評価

- 安否札を実際に使ってくれた
- 学外のイベントで大々的に取り上げてもらい認められた

達成感

- 真剣に感想を書いたのを覚えている

学校・教員側の課題意識

教員の熱意

- 中学校では先生の真剣さが伝わってきた。力の入れ方が高校とは違う

３．「いわての復興教育」について

あの日あの時　　人間の想像を遙かに超える自然の力

平成23年3月11日（金）午後2時46分

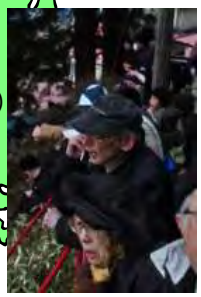
東北地方太平洋沖地震（東日本大震災津波）発生

東日本大震災

発生日時	2011/3/11
震源地	三陸沖
震源の深さ	24km
マグニチュード	9.0
最大震度	震度7
地震の種類	海溝型地震
死者数	5,061（4/30現在）
行方不明者数	1,150（4/30現在）
負傷者数	209（4/30現在）

前代未聞の甚大な被害

尊い命
日常の営み
幸せな時間と空間



ひとづくり　　つらい経験にも教育的価値

日本教育新聞　掲載日：2011年9月5日＜15面＞

363

人づくり国づくり
―復旧復興編―

菅野　洋樹
岩手県教育委員会教育長

つらい経験にも教育的価値

かんの・ひろき　昭和29年生まれ。上智大卒後、岩手県庁入庁。教育委員会事務局教育企画室長、知事部局総務部長などを経て本年4月から現職。

震災の経験を子ども達がどう受け止め、
これからどう生きていくべきなのか？

⇩

震災・津波を乗り越え、未来を創造していくために、10年後、20年後の岩手県を支えていける子どもたちの育成を目指す。

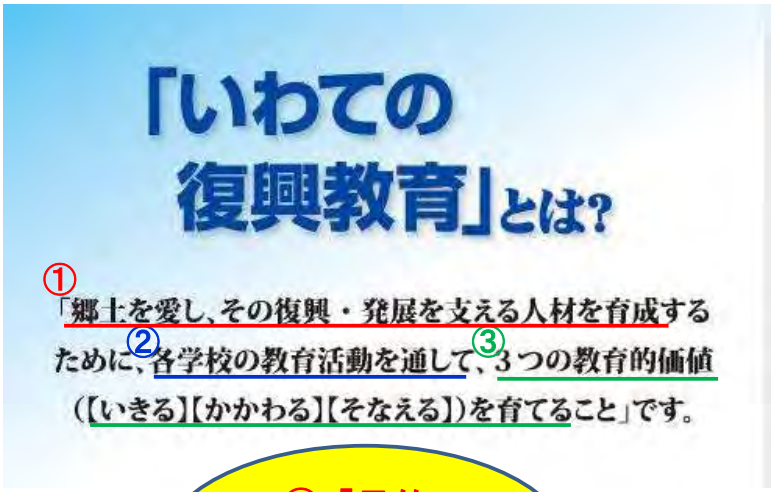
そのために

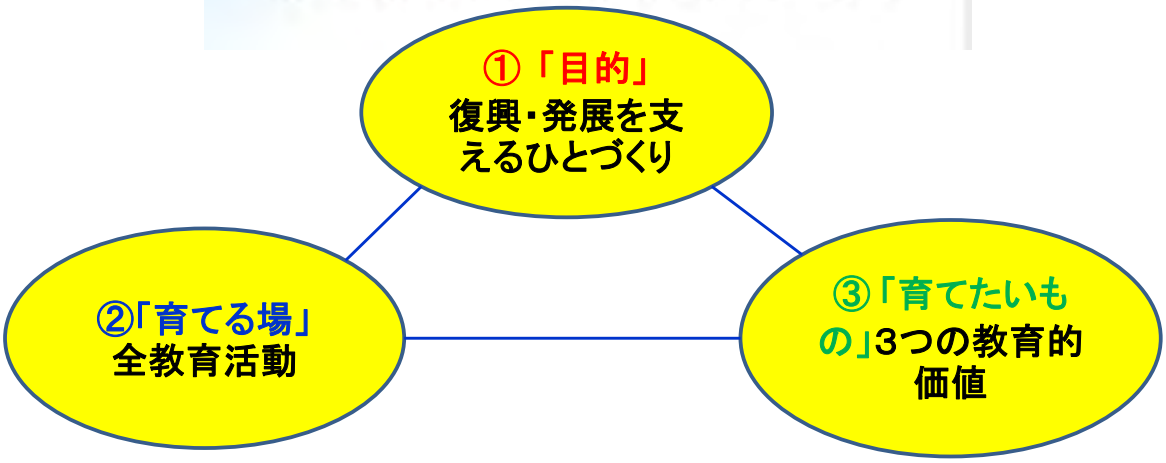
各学校でふさわしい復興教育に取り組む

震災・津波に伴う経験は
それぞれ貴重な教育的価値をもっている
- 新しい防災教育
- 体験(教訓）から学ぶ教育活動

被害の多寡によらず、県内全ての子ども一人一人が震災津波と向き合い、自分自身を見つめ、他者や社会とのかかわりを考えることが重要

「いわての復興教育」とは





3つの教育的価値とは

1 いきるについて

- 命の大切さや自然や畏敬の念に関すること。
- 心のあり方、これからの生き方に関すること。
- 心のサポートに関すること。
- 体力の維持・増進など、身体の健康に関すること。

2 かかわるについて

- 家族の絆や家族の一員としての喜びに関すること。
- 互いに助け合ったり、思いを寄せ合ったりする仲間や地域の方々に関すること。
- 災害後の支援活動における県内外や各国間とのつながり（絆）に関すること。
- 地域づくりに関すること。
- 自然とのつながりに関すること。

3 そなえるについて

- 震災津波体験（情報・ライフラインの途絶等）や科学的知見・防災リテラシーを踏まえた防災に関すること。
- 災害時の行動に結びつく判断に関すること。
- 災害を想定した日頃の備えに関すること。
- 非常時に生き抜く知恵と衣食住の技能に関すること。
- 災害について学ぶこと。

震災後の岩手県の取組

平成24年度

初版を基盤としながら

絶えず理念等を確認

平成25年度

平成31年度

○「学校防災・災害対応指針」
○「県教育委員会危機管理マニュアル」【改訂版】(Ｈ２４年３月策定)

津波警報発表中、又は、２次災害のおそれのある場合、児童生徒の保護者への引渡しは行わない。

「いわての復興教育」を全県の学校が取り組む意義

地域にかかわらず、本県全ての子どもたちが、「震災津波の経験を後世へ語り継ぎ、自らのあり方を考え、未来志向の社会をつくること」ができるようにする。

● 東日本大震災津波から得られた教育的価値【いきる】【かかわる】【そなえる】は、人間が生きていく上で持つべき普遍的価値と重なるものであり、その獲得は子どもたちの生涯にわたっての生きる力となる。

● 活動や取組によって、「思考力・判断力・表現力」の育成につながり、どんな場面に遭遇しても対処できる応用可能な力となる。

いわての復興教育副読本『いきる　かかわる　そなえる』改訂版

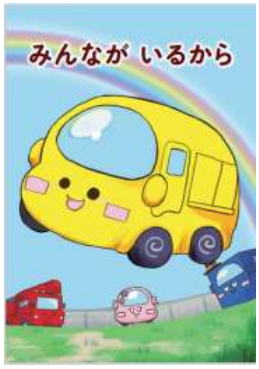
小学校・低学年用

小学校・高学年用

中学校用

高等学校用

「いわての復興教育」絵本



「いわての復興教育」プログラム｜改訂版■10

「いわての復興教育」の推進
5つのポイント

4 【学校経営への位置付け】

「いわての復興教育」を、「学校経営の基本方針」や「経営の重点」に位置付ける際の考え方を示しました。

学校経営の基本方針／重点への位置付け

学校教育目標

学校経営の基本方針

○　　～　を目指す。

「いわての復興教育」の目的に触れます。

復興教育の目的

郷土を愛し、その復興・発展を支える人材の育成（復興・発展を支えるひとづくり）

経営の重点

○　　～　を充実する。
○　　～　を向上する。

各校が設定した本年度の重点の中に、教育的価値一覧表を参考にしながら、自校の復興教育を位置付けます。

教育的価値一覧表

3つの教育的価値	具体の21項目
1 【い き る】	①～⑦
2 【かかわる】	⑧～⑭
3 【そなえる】	⑮～㉑

「いわての復興教育」の取組事例

平成23年3月18日(金)　大船渡市立第一中学校　学校新聞「希望」

一中生に、声をかけて下さい！

希望

何でもやります

平成23年
3月18日(金)
大船渡市立第一中学校
学校新聞「希望」
生徒会有志

心の叫びが行動へ

『希望新聞』
－大船渡市立第一中学校
生徒会の取組－

平成23年 10月7日(金)　大船渡市立第一中学校　学校新聞「希望」 第13号

11月4日(金)に ふれ合い交流会開催！

花いっぱいの団地に

希望

平成23年
10月7日(金)
大船渡市立
第一中学校
学校新聞「希望」
第13号
発行責任者 高橋祐子

気づきから生き方・在り方へ

活動は少しきつかったが、現地の人たちに感謝されたのでうれしかった。感謝されることがこんなにうれしいものなんだと思った。ボランティアに参加することは、人と人がつながっていくことに関わることなんだと思った。少しでも、被災地の人のために、まず自分たちができることをちゃんと続けなければいけないと思った。

ボランティアを通して、私は誰かのため行動することのよさを、改めて気づくことができました。作業が終わったときに感じた達成感は、何物にも代えられません。今回は現地での直接的な支援を行いましたが、今後は他方面からの支援も検討していきたいと考えております。

その後の釜石東中学校

復興・防災ボランティースト

花壇整備

復興職場体験

仮設住宅訪問

夢を語る

「いわての復興教育プログラム」(県教育委員会)より

【いきる】

「いわてこころのサポート」

■いわて子どものこころのサポートとは

1　目　的

（1）全ての児童生徒が自身の心とからだの変化や反応に適切に対処できるようセルフケアの力を高める。

（2）児童生徒がつらい反応をひとりで抱え続けることのないよう、教師が児童生徒の発するサインに気づき、耳を傾け、適切なセルフケアの助言ができる体制をつくる。

（3）医療機関との連携によるサポートが必要な児童生徒に対する支援を行う。

2　実施内容

（1）こころのサポート授業（「こころとからだの健康観察」、体験活動）

（2）担任による個別面談

（3）スクールカウンセラー（以下SC）による個別面談（小学校は、学区の中学校配置SCを活用）

こころのサポート授業

トラウマ編（19項目版）

岩手県立総合教育センターHPより

【参考】「第3次学校安全の推進に関する計画」

第3次学校安全の推進に関する計画（概要）

●学校安全の推進に関する計画：各学校における安全に係る取組を総合的かつ効果的に推進するため、国が策定する計画（学校保健安全法第3条第2項）
●「第３次学校安全の推進に関する計画の策定について（令和４年２月７日中央教育審議会答申）」を踏まえ、令和４年３月２５日（金）に閣議決定（計画期間:令和4年度から令和8年度までの５年間）

Ⅰ　総論

第3次計画の策定に向けた課題認識

〇 学校が作成する計画・マニュアルに基づく取組の**実効性に課題**
〇 学校安全の**取組内容や意識の差**
〇 東日本大震災の記憶を風化させることなく今後発生が懸念される大規模災害に備えた実践的な防災教育を全国的に進めていく必要性
など

施策の基本的な方向性

○ 学校安全計画・危機管理マニュアルを**見直すサイクル**を構築し、**学校安全の実効性**を高める
○ **地域の多様な主体と密接に連携・協働し、子供の視点を加えた安全対策**を推進する
○ 全ての学校における実践的・実効的な安全教育を推進する
○ **地域の災害リスクを踏まえた**実践的な防災教育・訓練を実施する
○ 事故情報や学校の取組状況などデータを活用し**学校安全を「見える化」**する
○ 学校安全に関する意識の向上を図る（学校における**安全文化の醸成**）

第3次学校安全の推進に関する計画（概要）

目指す姿

○ 全ての児童生徒等が、**自ら適切に判断し、主体的に行動できるよう**、安全に関する資質・能力を身に付けること
○ 学校管理下における児童生徒等の死亡事故の発生件数について限りなく**ゼロ**にすること
○ 学校管理下における児童生徒等の負傷・疾病の発生率について、障害や重度の負傷を伴う事故を中心に**減少**させること

Ⅱ　推進方策

５つの推進方策を設定し、学校安全に関する具体的な取組の推進と学校安全に関する社会全体の意識の向上を図る

1．学校安全に関する組織的取組の推進

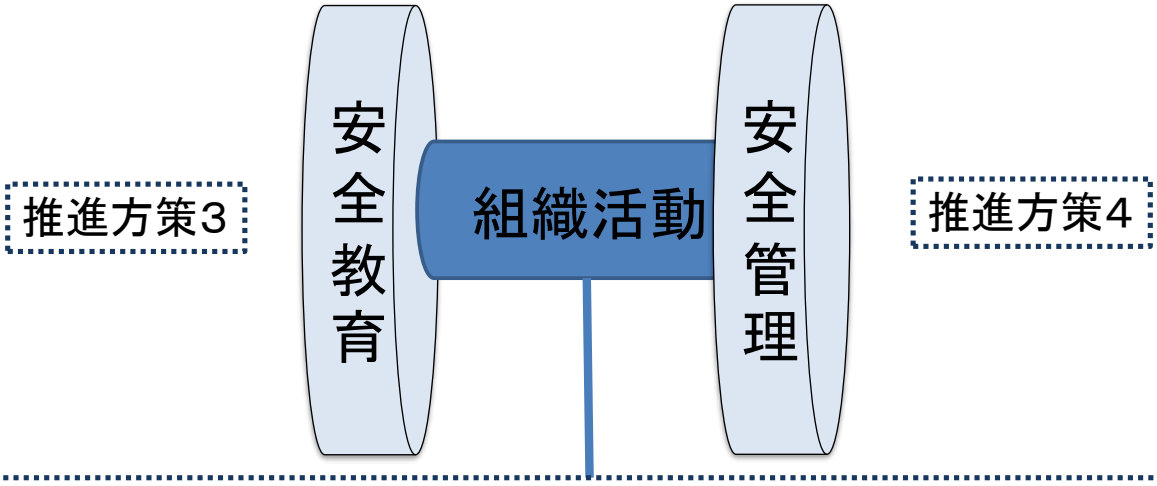
2．家庭、地域、関係機関等との連携・協働による学校安全の推進

3．学校における安全に関する教育の充実

4．学校における安全管理の取組の充実

5．学校安全の推進方策に関する横断的な事項等

第3次計画における推進方策の構造



推進方策1
学校安全に関する組織的取組の推進
推進方策2
家庭、地域、関係機関等との連携・協働による学校安全の推進

推進方策5「学校安全の推進方策に関する横断的な事項等」

推進方策１．学校安全に関する組織的取組の推進

学校経営における学校安全の明確な位置づけ ➡ 学校評価

○ **学校経営における学校安全の明確な位置付け**
○ セーフティプロモーションスクールの考え方を取り入れ、学校安全計画を見直すサイクルの確立
○ 学校を取り巻く**地域の自然的環境**をはじめとする**様々なリスクを想定した危機管理マニュアル**の作成・見直し
○ 学校における学校安全の**中核を担う教職員**の位置付けの明確化、学校安全に関する研修・訓練の充実
○ 教員養成における学校安全の学修の充実

セーフティプロモーションスクールの考え、地域の災害リスク➡学校安全計画、危機管理マニュアルの見直し

推進方策２．家庭、地域、関係機関等との連携・協働による学校安全の推進

例）熟議では、子供も参加し、防災をテーマに。

○ **コミュニティ・スクール等**、学校と地域との連携・協働の仕組みを活用した学校安全の取組の推進

○ 通学時の安全確保に関する地域の推進体制の構築、通学路交通安全プログラムに基づく関係機関が連携した取組の強化・活性化

○ SNSに起因する児童生徒等への被害、性被害の根絶に向けた防犯対策の促進

推進方策３．学校における安全に関する教育の充実

（２）地域の災害リスクを踏まえた実践的な防災教育の充実

○ **事前防災の体制の強化**及び**実践的な防災教育**の推進は喫緊の課題

○ **「防災をとおした教育」**と広く捉えることが必要

○ 防災教育には、災害時に自分と周囲の人の命を守ることのできるという効果、児童生徒の**主体性**や**社会性**、**郷土愛**や**地域を担う意識**を育む効果、**地域の防災力**を高める効果への期待

○ 自然がもたらす恩恵、**地域に対する理解**を深めることができるような防災教育

○ **より実効性のある訓練**への見直し

推進方策４．学校における安全管理の取組の充実

○　学校における安全点検に関する手法の改善（判断基準の明確化、**子供の視点**を加える等）、学校設置者による点検・対策の強化（専門家との連携等）
○　学校施設の老朽化対策、**非構造部材の耐震対策、防災機能の整備の推進**
○　重大事故の予防のためのヒヤリハット事例の活用
○　学校管理下において発生した事故等の検証と再発防止等（学校事故対応に関する指針の内容の改訂に関する検討）

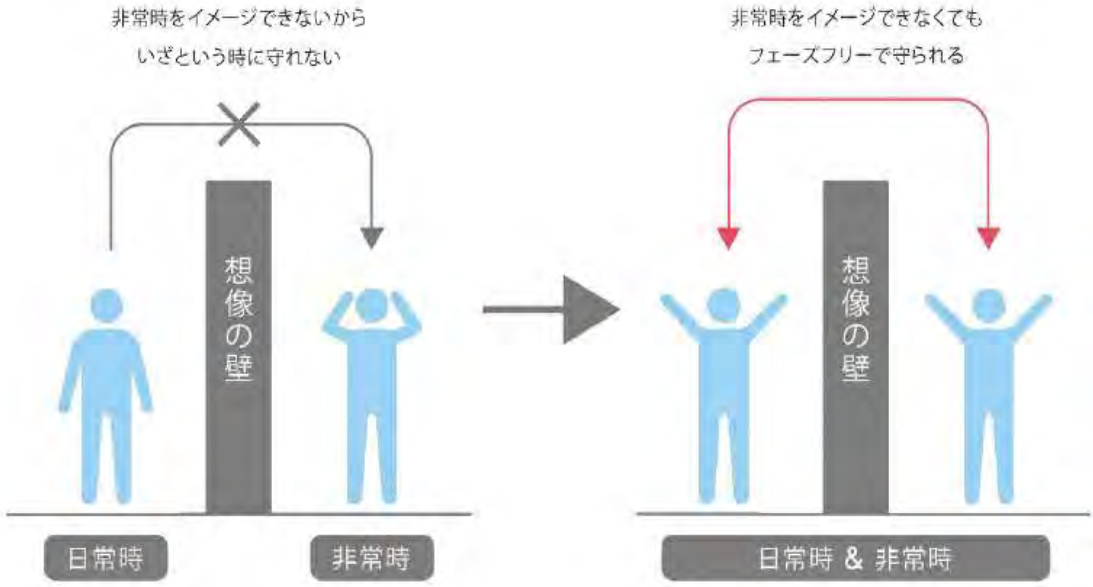
安全点検の手法の改善（子供の視点）、ヒヤリハット事例の活用

推進方策５．学校安全の推進方策に関する横断的な事項等

○　**学校安全に係る情報の見える化**、共有、活用の推進（調査項目、調査方法の見直し等）
○　**学校安全を意識化する機会の設定**の推進（各学校の教職員等の意識を高める日・週間の設定等）
○　国の学校安全に関する施策のフォローアップの実施

学校安全の見える化、学校安全を意識する機会（○月○日、安全の日）の設定

徳島県　鳴門市教育委員会のフェーズフリーの取組



鳴門市教育委員会
「PHASE　FREE　CONCEPT　&　GUIDEBOOK for　School」(2021.3)より

R2年度「学校安全総合支援事業」(文部科学省委託事業)より

おわりに

「学校の防災は、地域防災と一体でないと意味がない。この地に生きる人たちから過去の災害や教訓を学ぶ。地域の方々との情報共有・連携、日頃の顔の見えるつきあいが大事。地域がつながっていることは、命がつながっていること。」

岩泉町立小本小学校校長（当時）の言葉から
(2013年6月18日の学校訪問時)